

3 抽出された問題点と解決の方向

	問 題 点	解 決 の 方 向
I 試 験 研 究 上	1. カツオ餌料魚の出現量は年別、時季別に変動があり、供給不安定であると同時に絶対量が不足しているため積極的なエサ資源の増殖方法の検討と併せて餌料魚の季節的な分布、移動、生態、および資源量等の解明を行なう必要がある。	既存資料の整理、カツオ餌料用人工魚礁調査、エサ魚礁造成等に対応していきたい。
	2. 餌料魚の種類によって活力に強弱があるが、弱い種類については、蓄養することによって活力を強くする方法はないか。	県単事業のカツオ餌料蓄養試験で本格的に試験する。
	3. カツオ回遊状況の通報	調査船図南丸のカツオ漁場調査中に電報による通報を行なう。
	4. 黒潮流軸の変動の報告	漁海況予報事業で年6回実施する。沖合定線調査結果を速報で通報すると共に、その他関係機関の海況資料を入手次第とりまとめて通報する。
II 行 政 上	1. 漁業調整の問題	カツオ餌料対象魚類の保護規制の処置検討
	2. 土砂（赤土）による地先漁場の汚染	公害防止条令施行体制の強化。
	3. 乗組員の老令化	後継者育成のための施設が必要である。
	4. 経営体の資本力の弱さ	補助融資等の側面的援助が望まれる。